

げんき通信

インフルエンザのお話

通常、冬場に流行するインフルエンザですが、今季は10月に始まりました。

2009年の新型インフルエンザ騒ぎがあつて以来、予防法や養生法などは一般に広く認知されてきましたが、まだ知られていないことも少なくありません。今回はインフルエンザに関して薬局で質問が多いものを取り上げてみます。

新型の流行当初は、人々が免疫を持たなかったために、大規模流行となりましたが、徐々に免疫を獲得するにつれ、翌年以降は季節性のもとと変わらない状況となりました。これを受け、「新型」と呼ばれていた2009年型のウイルスも、2011年4月以降は通常の季節性インフルエンザとして取り扱ふことになりました。

今年のワクチンにも、A香港型、B型、2009年型の3種類が含まれています。ワクチンは接種すれば100%からない、というものではありませんが、一定程度の発症を抑える効果があり、重症化を阻止する目的があります。有効期間は接種後2週間から5ヶ月程度までといわれています。

C O L U M N

げんきコラム

マスクの正しい着け方は?



冬はノロやインフルエンザなどのウイルスたちが元気になる季節です。それに対抗するためには手洗いとマスクは欠かせません。マスクは顔の大きさに合わせて選んでください。初めに縦に半分に折り、鼻にあたる部分を作ります。かけた後、鼻の上を軽く押さえて、あごの下まで引っ張ると、すっぽり覆うことができます。感染した人が使ったものはビニール袋に入れて口を縛ってから捨ててくださいね。

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください



すべての病院・医院の処方せんを受けつけ責任を持って調剤いたします。

かかってしまった場合には…

かかってしまった場合には抗ウイルス薬を使うことが多いのですが、妊娠中の服用については心配する方も多いでしょう。最初に発売されたタミフル(内服)という薬については「胎児に先天性異常を及ぼすリスクは高くない(妊娠と薬情報センター)」「悪影響を及ぼさない(日本産婦人科学会)」という報告がされています。次いで出てきたリレンザ(吸入)は局所で作用するため、胎児の血中に入る量もごくわずか、胎児に重大な影響を及ぼす可能性は



かかってしまった場合には、こじらせないためにも安静が第一です。

少ないとされています。どちらを使用するかは医師が判断します。授乳に関しては、抗インフルエンザ薬は母乳に移行するので、製薬会社の説明書には「授乳を避けること」となっていますが、欧米では「タミフルの母乳への移行はごくわずか、1才未満のタミフルの投与量に満たない」とのデータを根拠に、授乳可としています。日本産婦人科学会でもタミフル、リレンザともに同様の見解です。

学校、幼稚園、保育園の出席停止については、学校保健法で「発症して5日を経過し、かつ解熱してから2日(幼児にあつては3日)経過するまで」と定められています。会社などでは決まりはありませんが、発症後3〜7日はウイルスを排出するといわれています。まわりへの影響を考えると、できるだけ休むのが望ましいのは言うまでもありません。こじらせないためにも安静が第一です。詳細は医師と相談してください。



〈西与賀店：薬剤師/にしやま〉

ご家族みなさんのかかりつけ薬局としてご利用ください

あなたのまちのくすり箱

くぼ薬局

- 県庁通り店 ☎23-4550
- 中町店 ☎26-2817
- 木原店 ☎24-2233
- 中の小路店 ☎24-2882
- 西与賀店 ☎22-2311
- 医大通り店 ☎32-1133
- 北茂安店 ☎0942-89-1777